

時に寄り添う

6月の終わりから7月のはじめにかけて、こういう言葉をよく聞いた。「あっという間に一年の半分が過ぎてしまいました」。ただ、あるとき同じ人がすぐにこう言ったことが気になった。「おぼえていますか。北京の冬季オリンピックって今年だったんですよ」。ちょっと待ってほしい。この6か月があっという間だったとしたら、今年の2月に開催されたオリンピックだって昨日のこのように感じているはずじゃないのか。

少し考えれば明らかに矛盾することを口にして直ちに違和感を持たないのは何故だろうかと考える。

私たちのそばにはいつも時間がある。始業時刻に合わせて何時何分発の電車に乗って職場へ行く。仕事では締め切りの日時が指定された作業依頼がメールで流れてくる。依頼の難易度等を考慮して道行きを思い描き作業を処理する。子供のころから体にたたき込まれた時間の感覚はいわば社会人としての常識である。

しかしよく考えてみると、こうした時間は周りの環境と連動していない単なる単位であることに気がつく。通勤も仕事の時間も季節とは関係なく過ぎ去っていく。電車の窓から外を見れば季節を感じるができるかもしれないけれど、残念ながらそこまで心のゆとりを持ってない人が大半だろう。そんな調子で季節を意識することなく日常を過ごしてしまっているから、私たちは、今日が何月何日だと言われたときに初めて驚くのである。結局のところ、私たちは時間を管理しているつもりが、まったく見当違いの世界を生きているのかもしれない。

他方、季節が流れゆく速度は常に一定というわけではない。近年では、かつて常識だった季節感とは異なる異常気象が毎年のように襲来し、私たちの感覚を麻痺させている。つい最近でも、本来梅雨である時期に全国で猛暑日が続いたかと思えば、8月には線状降水帯による集中豪雨が広範囲に大きな被害をもたらすといった事例が発生している。中長期的な視点では、気候変動による海水温上昇等から、各地で漁獲される水産物の種類や量に大きな変化が生じている。次々と矢継ぎ早に現れる難問に回答を求められる中で、尺は以前と変わらないはずなのに、外部のダイナミックな変化に気圧されて、私たちは時間をさらに見失ってしまっている。

時間は万人に公平に与えられた財産である。これをどう味方につけるか。ただ日々の単位時間を調整するだけではない〇〇こそが、人生を豊かに彩る鍵であるに違いない（注：〇〇の解答はまだ見つけられていない）。

（水産土木チーム上席研究員 森 健二）

* * * *

表紙右上記号 ISSN 2432-2652の説明

国際的なコード番号であるISSN (International Standard Serial Number : 国際標準逐次刊行物番号)は、ISSN ネットワークが管理する、逐次刊行物を識別するための固有の番号です。この番号は国立国会図書館ISSN日本センターから付与されたものです。